

西浦校区コミュニティ協議会だより

電話：73-8641 ファックス：73-8648

平成28年3月1日 第21号



西浦の名所

大山祇神社

西浦に入ってまず目にするのが、大山祇神社の大きなイチョウの木です。特に秋に紅葉したイチョウの木は、ちょっと車を止めて写真でも撮ろうかとう気持ちにさせます。西浦を知らない人でも、蒲生から川内に行く途中の神社に大きなイチョウの木がある所が西浦という、大抵の人は、「ああ、知っている。」と言われます。

瀬戸内海の大三島の大山祇神社から、奈良時代までに全国津々浦々に分社が祭られたようで、西浦の大山祇神社と同じ名前の神社が国内にはいくつもあるようです。地神・海神兼備の霊神が祭られているようです。

西浦の大山祇神社は、年間を通じて自治会ごとに掃除がなされ、例大祭が行われたり、しめ縄を年末行事で作ったり、初詣をしたりして、校区民みんなの心のよりどころになって、大切にされています。

例大祭は年2回行われています。大山祇神社の宮司さんが来られ、会長・副会長・6自治会長が参加して行われます。1回目は春の例大祭で3月18日。この日に大山祇神社の神様が田んぼの見回りに出かけられるそうです。米どころの西浦、稲の豊作を願う人々の期待を背負って、田んぼを見回ってくださっています。2回目は秋の例大祭で12月12日。今度は山の見回りに出掛けられるそうです。家の材木や紙の原料になる木の生長を見守ってくださいます。いずれも農作業や山仕事で怪我や事故がないように安全に行われることと、豊作を祈願しての祭りです。

大山祇神社の例大祭は、西浦の伝統的行事のひとつです。

大山祇神社の六月燈

